

科目	有機化学I (Organic Chemistry I)		
担当教員	大淵 真一 教授		
対象学年等	応用化学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-C1(100%)		
授業の概要と方針	有機化合物(アルカン,シクロアルカン,アルケン,アルキン,芳香族化合物,ハロゲン化合物)の構造と命名,物理的性質,合成法,反応性などを中心に有機化学の基本的な事項及び理論を学習する.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-C1】有機化合物の構造と結合について理解でき,飽和炭化水素(アルカン,シクロアルカン類)の命名法を修得する.		飽和炭化水素の命名法や反応理論を理解し説明できるか,小テストと演習問題解答レポートと前期中間試験で評価する.
2	【A4-C1】不飽和炭化水素(アルケン,アルキン類)の命名法を修得し,構造・合成法・性質・反応について理解できる.		不飽和炭化水素の命名法や反応理論を理解し説明できるか,小テストと演習問題解答レポートと前期定期試験で評価する.
3	【A4-C1】芳香族化合物(ベンゼンおよびその誘導体)の命名法を修得し,構造・合成法・性質・反応について理解できる.		芳香族化合物の命名法や反応理論を理解し説明できるか,小テストと演習問題解答レポートと後期中間試験で評価する.
4	【A4-C1】立体化学に関する基礎知識を修得し,光学異性体の構造・命名が記述できる.		立体化学に関する定義が記述できるか,光学異性体の構造・命名が記述できるか,小テストと演習問題解答レポートと後期中間試験および後期定期試験で評価する.
5	【A4-C1】ハロゲン化合物の命名法を修得し,構造・合成法・性質・反応について理解できる.		ハロゲン化合物の命名法や反応理論を理解し説明できるか,小テストと演習問題解答レポートと後期定期試験で評価する.
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験80% レポート10% 小テスト10% として評価する.試験成績は4回の試験の平均点とする.なお,未提出レポートがあった場合はこの限りではない.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト	「ハート基礎有機化学」:秋葉 欣哉,奥 彬共訳(培風館)		
参考書	「化合物命名法—IUPAC勧告に準拠—」:日本化学会命名法専門委員会編(東京化学同人)		
関連科目	C2無機化学I,C2分析化学I		
履修上の注意事項	応用化学科の基礎科目の一つです.試験のためだけの知識としないようにしてください.		

授業計画(有機化学I)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	有機化学のガイダンス, 原子の電子構造	有機化学の領域や本質について興味ある話題を提供しながら分かりやすく解説する。化学の基本である原子の電子構造を電子殻や原子軌道理論を使って説明する。
2	有機化合物の構造と結合(1)	化学結合(イオン結合, 共有結合, 配位結合)について解説する。分子式や構造式の書き方について解説する。基本的な飽和炭化水素の命名法(IUPAC命名法)を解説する。
3	有機化合物の構造と結合(2)	原子価, 構造異性, 形式電荷, 共鳴構造について解説する。基本的な飽和炭化水素の命名法(IUPAC命名法)を解説する。
4	有機化合物の構造と結合(3)	炭素原子の σ 結合とsp ³ 混成軌道について解説する。種々の反応性を持つ官能基について解説する。基本的な飽和炭化水素の命名法(IUPAC命名法)を解説する。
5	アルカンとシクロアルカン(1)	飽和炭化水素化合物であるアルカンとシクロアルカンの構造と命名法(IUPAC命名法), 立体異性体について解説する。
6	アルカンとシクロアルカン(2)	シクロアルカンの立体配座について解説する。アルカンとシクロアルカンの酸化反応について解説する。
7	アルカンとシクロアルカン(3)	アルカンとシクロアルカンのラジカル置換反応について解説する。これまでの内容を練習問題を使って復習する。
8	中間試験	有機化合物の基本的事項および飽和炭化水素(アルカン・シクロアルカン)の命名法, 反応理論の理解度を試験する。
9	中間試験解答及びアルケン(1)	中間試験内容を解説する。不飽和炭化水素(アルケン)の構造と命名法について解説する。
10	アルケン(2)	アルケンの結合であるsp ² 混成軌道と π 結合について解説する。シストランス異性体について解説する。
11	アルケン(3)	アルケンの求電子付加反応とMarkovnikov則について解説する。
12	アルケン(4)	アルケンの酸化反応について解説する。
13	アルケン(5)とアルキン(1)	共役ジエンの付加反応とDiels-Alder反応について解説する。アルキンの構造と命名について解説する。
14	アルキン(2)	アルキンのsp混成軌道について解説する。アルキンの求電子付加反応について解説する。
15	アルキン(3)	アルキンの酸性度について解説する。アルケンとアルキンの内容を練習問題を使って復習する。
16	定期試験解答及び芳香族化合物(1)	定期試験内容を解説する。芳香族化合物の構造と命名(IUPAC名, 慣用名)を解説する。
17	芳香族化合物(2)	芳香族化合物の共鳴構造と軌道モデルについて解説する。ベンゼンの共鳴エネルギーについて解説する。誘起効果と共鳴効果について解説する。
18	芳香族化合物(3)	芳香族化合物の求電子置換反応における反応性と配向性について解説する。
19	芳香族化合物(4)	芳香族化合物の求電子置換反応における反応性と配向性について解説する。
20	芳香族化合物(5)	芳香族ジアゾニウム化合物の合成法と利用法について解説する。
21	芳香族化合物(6)	多環芳香族化合物・複素環式芳香族化合物の構造と命名を解説する。芳香族化合物の内容を練習問題を使って復習する。
22	立体化学(1)	キラリティ, 対掌体, 不斉炭素について解説する。R-S表示法, E-Z表示法について解説する。Fischer投影式について解説する。
23	中間試験	芳香族化合物の命名法, 反応理論の理解度を試験する。立体化学の理解度を試験する。
24	中間試験解答及び立体化学(2)	中間試験内容を解説する。ジアステレオマー化合物およびメソ化合物について解説する。
25	立体化学(3)	立体化学と化学反応性および光学分割法について解説する。
26	ハロゲン化合物(1)	ハロゲン化合物の構造と命名(IUPAC名, 慣用名)を解説する。ハロゲン化合物の合成法について解説する。
27	ハロゲン化合物(2)	ハロゲン化合物の求核置換反応(SN ₂)について解説する。
28	ハロゲン化合物(3)	ハロゲン化合物の求核置換反応(SN ₁)について解説する。
29	ハロゲン化合物(4)	ハロゲン化合物の脱離反応(E1, E2)について解説する。
30	ハロゲン化合物(5)	ハロゲン化合物の求核置換反応と脱離反応の競争反応について解説する。ハロゲン化合物の内容を練習問題を使って復習する。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。各試験終了後に追加試験を実施する場合がある。	